

令和5年度

特定非営利活動法人 光の岬福祉研究会

児童デイサービスきらり職員による  
自己評価調査報告書

特定非営利活動法人 光の岬福祉研究会

## 調査概要

### 1. 目的

去る 2017 年 1 月、厚生労働省によって「放課後等デイサービスガイドライン」の遵守と自己評価結果の公表に関するガイドラインが出されたことを受け（平成 29 年 4 月からは義務実施）、NPO 法人光の岬福祉研究会の依頼に基づき、同法人の運営する放課後等デイサービス事業所 2 カ所の職員を対象に、事業所が提供しているサービスについてどのように感じているのか、その現状を把握するとともに、その改善点を明らかにし、事業所運営の参考にすることを目的に調査を実施した。

### 2. 調査対象

当該法人の運営する児童デイサービスきらりで、直接子どもと関わり支援をしている職員 6 名を対象に実施した。各調査対象への回収率と有効回答率は下記のとおりである。

回収率 100.0%      有効回答率 100.0%

### 3. 調査期間

令和 6 年 2 月 1 0 日(土)～令和 6 年 2 月 1 5 日(木)

### 4. 調査方法

厚生労働省が示す「放課後等デイサービス自己評価票（事業者用）」のチェック項目を基に調査項目を設け、「あてはまる」～「あてはまらない」の 5 件法で調査票を作成した。

主な調査項目は以下のとおりである。

- ①環境・体制整備（活動スペース、職員配置数の適否についてなど）
- ②業務改善（PDCA サイクルへの職員参加、自己評価結果の公表など）
- ③適切な支援の提供（面談の有無、プログラムが固定化しない工夫など）
- ④関係機関や保護者との連携（学校との情報共有など）
- ⑤保護者への説明責任（利用者負担等についての説明、個人情報の扱いなど）
- ⑥非常時等の対応（避難訓練等の実施、ヒヤリハット集の作成など）
- ⑦回答者の属性（年齢、障害児福祉分野での経験年数）
- ⑧その他

### 5. 倫理的配慮

調査票の回収は匿名で行い、個人が特定されないようにした。

# 児童デイサービスきらり職員評価集計表

回収率100% 有効回答数6名

	チェック項目	そう思う		どちらかと言えそう思う		どちらとも言えない		どちらかと言えそう思わない		そう思わない		無回答	
		人数(人)	構成比	人数(人)	構成比	人数(人)	構成比	人数(人)	構成比	人数(人)	構成比	人数(人)	構成比
①	Q1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	67%	2	33%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
②	Q2 職員の配置数は適切である	4	67%	2	33%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
③	Q3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	33%	3	50%	0	0%	1	17%	0	0%	0	0%
④	Q4 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	33%	4	67%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑤	Q5 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	83%	0	0%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%
⑥	Q6 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	50%	2	33%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%
⑦	Q7 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	5	83%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑧	Q8 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	83%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑨	Q9 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	50%	3	50%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑩	Q10 活動プログラムの立案をチームで行っている	3	50%	2	33%	0	0%	1	17%	0	0%	0	0%
⑪	Q11 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	50%	2	33%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%
⑫	Q12 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	2	33%	3	50%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%
⑬	Q13 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	2	33%	2	33%	2	33%	0	0%	0	0%	0	0%
⑭	Q14 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	83%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑮	Q15 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	33%	3	50%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%
⑯	Q16 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	2	33%	3	50%	0	0%	1	17%	0	0%	0	0%
⑰	Q17 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑱	Q18 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	1	17%	2	33%	3	50%	0	0%	0	0%	0	0%
⑲	Q19 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	67%	2	33%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑳	Q20 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
㉑	Q21 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	33%	0	0%	4	67%	0	0%	0	0%	0	0%

②②	Q22 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	33%	3	50%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%
②③	Q23 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	83%	0	0%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%
②④	Q24 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	17%	1	17%	4	67%	0	0%	0	0%	0	0%
②⑤	Q25 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	0%	0	0%	4	67%	0	0%	2	33%	0	0%
②⑥	Q26 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	17%	0	0%	3	50%	0	0%	2	33%	0	0%
②⑦	Q27 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	83%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
②⑧	Q28 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	0%	1	17%	4	67%	0	0%	1	17%	0	0%
②⑨	Q29 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	67%	2	33%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
③⑩	Q30 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	67%	2	33%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
③⑪	Q31 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	0%	0	0%	3	50%	2	33%	1	17%	0	0%
③⑫	Q32 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	67%	2	33%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
③⑬	Q33 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	83%	0	0%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%
③⑭	Q34 個人情報に十分注意しているか	6	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
③⑮	Q35 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
③⑯	Q36 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	0%	0	0%	2	33%	2	33%	2	33%	0	0%
③⑰	Q37 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	67%	2	33%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
③⑱	Q38 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	67%	1	17%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%
③⑲	Q39 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	67%	2	33%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
④①	Q40 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	67%	1	17%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%
④②	Q41 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	67%	0	0%	2	33%	0	0%	0	0%	0	0%
④③	Q42 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	33%	2	33%	2	33%	0	0%	0	0%	0	0%

# 児童デイサービスきらり職員評価集計表

回答率100% 有効回答6名

	チェック項目	工夫している点、課題や改善すべき点など
①	Q1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	窮屈さを感じることなく活動できていると思う
②	Q2 職員の配置数は適切である	適切な人数でお子さんに関われている。学校お迎え時の下校時間が重なった時等は、時間をずらしてもらったり、乗り合いにて対応している
③	Q3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	ハード面での改修計画は引き続き必要と思われる
④	Q4 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	業務の見直しについては、常に提案できるようにする
⑤	Q5 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	公開している
⑥	Q6 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	外部評価を業務改善につなげる
⑦	Q7 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	利用者の負担にならないように、研修計画をたてるようにする
⑧	Q8 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	今後も適切に行っていく
⑨	Q9 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	情報を収集し、より精度の高いアセスメントに努める
⑩	Q10 活動プログラムの立案をチームで行っている	チームで立案していると思える反映の仕方を確立する
⑪	Q11 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	マンネリにならないように工夫する
⑫	Q12 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	利用時間に応じて取り組む課題を工夫する
⑬	Q13 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	今後も継続していく
⑭	Q14 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	今後も継続していく
⑮	Q15 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	送迎の状況で難しいこともあるが、時間を開けずに振り返りを実施する
⑯	Q16 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	支援の検証・改善につながるように記録をとるように心がける
⑰	Q17 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	定期的に行うモニタリングも途切れることなく継続していく
⑱	Q18 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	ガイドラインの総則を周知する
⑲	Q19 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	担当者、児発管が出席している
⑳	Q20 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	今後も継続していく
㉑	Q21 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	受け入れに対しての体制の整備が必要

②②	Q22 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	積極的に情報を求め、情報共有をしていく
②③	Q23 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	移行支援会議の開催及び出席
②④	Q24 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	必要性を感じた時に連携できる体制を整える
②⑤	Q25 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	交流するための方法を考える
②⑥	Q26 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	可能な限り参加するようにする
②⑦	Q27 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	共通理解を持つように努める
②⑧	Q28 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	ニーズに対応できるだけのスキルの向上
②⑨	Q29 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	疑問点等があれば、その都度の説明を心がける
③⑩	Q30 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	全職員が対応できるようにスキルの向上に努める
③⑪	Q31 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	保護者も参加しやすいような環境の在り方
③⑫	Q32 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	信頼関係の構築に努めながら、内に秘めている思い等も把握していきたい
③⑬	Q33 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	HP上での活動の様子や報告だけでなく、あらゆる機会を捉えての発信
③⑭	Q34 個人情報に十分注意しているか	情報の扱いには慎重になるように心がける
③⑮	Q35 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	特性に合わせてのコミュニケーションを工夫している
③⑯	Q36 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	地域住民との交流により、活動の場を広げられるようにしたい
③⑰	Q37 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	要約した物を各家庭に配布してあるが、詳しく書いた物は閲覧できるようにしていく
③⑱	Q38 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	訓練の様子を連絡帳やHP等で、保護者に伝えるようにする
③⑲	Q39 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	研修や、セルフチェックで虐待の防止に努める
④⑩	Q40 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	必要がある場合には、説明と計画への記載で対応している
④⑪	Q41 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	食物アレルギー表を確認し対応しているので、今後も注意していきたい
④⑫	Q42 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	事例の共有をするために、事例集を活用するようにする